

令和6年度国内希少野生動植物種新規指定候補種の概要

表 1 令和6年度の国内希少野生動植物種の指定候補種一覧

界	綱	目	種名	卵・種子の指定	特定第一種	特定第二種
動物界	爬虫綱	とかげ亜目	きのぼりとかげ科			
			1) <i>Diploderma polygonatum donan</i> ( ヨナグニキノボリトカゲ )	●		●
	条鱗亜綱	こい目	こい科			
			2) <i>Acheilognathus typus</i> ( ゼニタナゴ )		●	
			3) <i>Pseudorasbora pumila</i> ( シナイモソゴ )			●
	昆虫綱	甲虫目	げんごろう科			
			4) <i>Hydaticus yambaruensis</i> ( ヤンバルオオイチモンジシマゲンゴロウ )	●		
		とんぼ目	ものさしとんぼ科			
			5) <i>Platycnemis phyllopoda</i> ( チョウセンゲンバイトンボ )			
	二枚貝綱	いしがい目	いしがい科			
6) <i>Obovalis omiensis</i> ( カタハガイ )					●	
植物界	きじかくし目	らん科				
		7) <i>Dienia ophrydis</i> ( ホザキヒメラン )		●		
		8) <i>Thrixspermum annamense</i> var. <i>devolianum</i> ( イリオモテカヤラン )				
		9) <i>Anemone sikokiana</i> ( シコクイチゲ )				
	しそ目	きんぼうげ科				
		くまつら科				
10) <i>Callicarpa formosana</i> ( ホウライムラサキ )		●				

※植物については政令にて綱・目は指定されない。

## 令和6年度新規指定候補種の概要

### ＜爬虫類＞

種名 (学名)	選定要件※	種の概要	
<p>1. ヨナグニキノボリトカゲ (<i>Diploderma polygonatum donan</i>)</p> <p>分類：キノボリトカゲ科</p> <p>環境省RLカテゴリー：絶滅危惧II類 (VU)</p> <p>日本固有</p> <p>指定区分：特定第二種国内希少野生動植物種</p>	ウ、エ	①種の特徴	<p>成体は全長198～232mm、頭胴長はオス57.7～71.0mm、メス55.5～70.5mm程度で、オキナワキノボリトカゲやサキシマキノボリトカゲと異なり雌雄差が認められない。四肢や尾は細長く、同様に細長い指の先には鋭いかぎ爪を備える。体表の鱗は、頭部の背面や側面を除き瓦上で、つやがなく、そのほとんどにキールがある。胴部側面の鱗は周辺のものに比べて大型化しており、かつ不規則に配置されている。オスはくすんだ淡灰色で、背中には4、5個の不規則な暗色斑が、体側には不規則な形状の白斑が並ぶ。メスは鮮やかな緑色で、背中にはオスと同じく4、5個の暗色斑が並ぶ。雌雄とも尾には10本前後の暗帯がある。</p> <p>雄の体色は全体的にはサキシマキノボリトカゲのものに似るが、体側の白色の縦帯が4つ前後の大形の白斑に分かれる点、白斑の位置とその周辺に、とくに大きな鱗が不規則に配置される点などで容易に区別できる。雌の体色も明暗の様式は雄に似るが、雄では地味な褐色や黒褐色が占める頭部や胴部の背面に、鮮やかな青緑色や黄緑色の鱗が多くちりばめられる点で異なる。</p> <p>餌となる土壌動物・昆虫類の豊富な常緑広葉樹林の林縁部や明るい疎林で、下草の少ない場所に多い。集落周辺や海岸近くの孤立した二次林などではみられない。</p>
		②分布域	(国内・現存) 沖縄 (与那国島)
		③存続を脅かす要因	森林伐採による生息地の縮小、外来種(インドクジャク)による捕食、(飼育・販売目的の)捕獲
		④その他	分布域の一部は以下に含まれる。 ・都道府県指定自然環境保全地域 ・国指定鳥獣保護区



©田中 聡

<魚類>

種名 (学名)	選定要件※	種の概要
<p>2. ゼニタナゴ (<i>Acheilognathus typus</i>)</p> <p>分類：コイ科</p> <p>環境省RLカテゴリー：絶滅危惧IA類 (CR)</p> <p>日本固有</p> <p>指定区分：特定第一種国内希少野生動植物種</p>  <p align="right">©高久 宏佑</p>	<p>ウ、エ</p>	<p>①種の特徴</p> <p>全長8～10cm程度。口の角に髭はなく、産卵期が秋、染色体数2n=44であることなど、イタセンパラに類似するが、鱗は極めて小さく縦列鱗数は50枚以上で、タナゴ亜科全体の中で特異である。本種はタナゴ属の中では側線が不連続で、体は著しく側扁し、体高は稚魚の時期は低い成長に従い高くなる。側線上方は鱗の外縁が黒褐色に縁取られており、側線下方は外縁黒色が不明瞭となる。背鰭は大きく、各鰭条に沿って黒色であるが、中間に無色の部分があるため縦に太いすじが認められる。腹鰭の前縁は白色が明瞭である。側線上方肩部に濃い青色の斑紋が認められる。オスの婚姻色は頭部および体側面は紫紅色で、鰓蓋から体側後方にかけて鮮紅色ないし茜色を示す。メスの産卵管は黒色で、伸長すると尾鰭を越える。</p> <p>平野部や大河川の下流部、大型の湖沼とそれに連なる水路や溜池などが生息場所で、産卵基質となる二枚貝（ドブガイ等）の存在が必須である。水深は浅く、流れは緩やかであるとともに底質は軟泥で、透明度は比較的低く、富栄養化された水域に生息する。</p> <p>②分布域</p> <p>(国内・現存) 岩手、宮城、秋田、福島、新潟（現存するのは国内外来集団※）</p> <p>(国内・絶滅) 山形、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川県</p> <p>※新潟県の現存個体群は、遺伝解析の結果と状況証拠から宮城県の個体を放流した国内外来集団である可能性が高いと報告されている。(Saitoh <i>et al.</i>, 2022)</p> <p>③存続を脅かす要因</p> <p>外来魚の分布拡大による直接的・間接的脅威の増大、池沼・河川の改修、圃場整備による埋め立て、溜池の管理不足による水質悪化とヘドロの堆積による二枚貝の減少、捕獲</p> <p>④その他</p> <p>他法令及び都道府県条例等に基づく指定状況は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福島県野生動植物の保護に関する条例指定種</li> <li>・岩手県指定天然記念物（「花巻矢沢地区のゼニタナゴ生息地」として生息地の一部が地域指定）</li> <li>・秋田県安本自然環境保全地域の指定野生動植物（動物の卵を含む）</li> </ul> <p>分布域の一部は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県指定自然環境保全地域</li> <li>・国指定鳥獣保護区</li> <li>・都道府県指定鳥獣保護区</li> </ul>

種名 (学名)	選定要件※	種の概要	
<p>3. シナイモツゴ (<i>Pseudorasbora pumila</i>)</p> <p>分類：コイ科</p> <p>環境省RLカテゴリー：絶滅危惧IA類 (CR)</p> <p>日本固有</p> <p>指定区分：特定第二種国内希少野生動植物種</p>  <p>成魚</p>  <p>未成魚</p>	イ	①種の特徴	<p>最大全長8 cm程度で、有孔鱗が体前方に0～5枚ある。これに対しモツゴは有孔鱗が34～36枚で連続している。しかし、モツゴでは有孔鱗が一部連続しなかったり、鱗の大きさが不揃いだったりするものもある。本種の体形はモツゴと比べ頭部が大きく、尾柄が高く、体幅が厚い。背鰭及び尾鰭の外縁が尖らず丸みがあり、尾鰭の湾入は浅い。また、体色は黒褐色で銀白色の金属光沢を持たないなどの点で、モツゴと区別できる。産卵期の4～7月になると、オスは頭部から各鰭まで強い黒色となり、頭部の頬、顎などに白色の追星が目立つ。なお、濃尾平野に生息するウシモツゴ (<i>P. pugnax</i>)は、体側に黒色縦帯を欠いていることから識別可能である。</p> <p>周囲を植物が覆う池沼などの止水域や流れの緩やかな水路などに生息するが、大型の池沼より灌漑用の小さな溜池などに多い。</p>
		②分布域	<p>(国内・現存) 北海道 (国内外来集団※)、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島、新潟、長野</p> <p>(国内・絶滅) 栃木、群馬、埼玉、東京</p> <p>※本州からのコイ、フナ等の移植に伴い持ち込まれた国内外来集団であると推定されている。(疋田, 1959, 北海道, 2010)</p>
		③存続を脅かす要因	<p>ため池の改修・管理不足による生息地の消失・減少および生息環境の悪化、国内外来種 (モツゴ) の侵入・交雑による外来種への置き換わり、外来種 (オオクチバス、ブルーギル) による捕食、捕獲</p>
		④その他	<p>他法令及び都道府県条例等に基づく指定状況は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長野県希少野生動植物保護条例指定種</li> <li>・宮城県大崎市指定天然記念物</li> <li>・青森県青森市指定天然記念物 (「又八沼に生息するシナイモツゴ」として生息地の一部が地域指定)</li> </ul> <p>広域分布のため、該当保護区等の詳細については割愛。</p>

＜昆虫類＞

<p>4. ヤンバルオオイチモンジシマゲンゴロウ (<i>Hydaticus yambaruensis</i>)</p> <p>分類：ゲンゴロウ科</p> <p>環境省RLカテゴリー：未掲載*</p> <p>日本固有</p> <p>指定区分：国内希少野生動植物種</p> 	<p>ウ、エ</p>	<p>①種の特徴</p>	<p>成虫の体長はおよそ15mm。体は楕円形でやや扁平。頭部は赤黄色で、オスでは基部と目に沿って黒い模様を呈す。前胸背板は赤黄色で、頭部側と上翅側の基部の中央には三角形様の斑紋が見られる。上翅は褐色～黒色で暗黄色を伴い、大部分が不明瞭な斑紋で覆われる。肩紋は通常独立し、上翅基部の不明瞭な横帯と連続しない。上翅後縁の中央部付近と後端部付近に斑紋が見られる。近縁種となるオオイチモンジシマゲンゴロウおよびリュウキュウオオイチモンジシマゲンゴロウとは、上翅の明るい斑紋や独立した肩紋、オス交尾器の形状により区別される。</p> <p>主に河川源流部にある平坦面の湿地で、森林内の湧水のある小規模な池沼や湿地の水たまり等に生息する。流水環境には生息しない。</p>
		<p>②分布域</p>	<p>(国内・現存) 沖縄（沖縄島）</p>
		<p>③存続を脅かす要因</p>	<p>開発等に伴う池沼、湿地の消失、(飼育・販売目的の)捕獲</p>
		<p>④その他</p>	<p>分布域の一部は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国有林</li> <li>・ 国立公園</li> <li>・ 国指定鳥獣保護区</li> <li>・ 都道府県指定鳥獣保護区</li> <li>・ 都道府県指定休猟区</li> <li>・ 森林生態系保護地域</li> </ul> <p>※新種であるため環境省レッドリスト未掲載だが、次期レッドリストにおいて絶滅危惧種相当のカテゴリーに評価される見込み。</p>

種名 (学名)	選定要件※	種の概要	
<p>5. チョウセンゲンバイトンボ (<i>Platycnemis phyllopoda</i>)</p> <p>分類：モノサシトンボ科</p> <p>環境省RLカテゴリー：未掲載※</p> <p>指定区分：国内希少野生動植物種</p>  <p>©自然環境研究センター</p>	ウ、エ	①種の特徴	<p>全長30mm～37mmのモノサシトンボ科の1種。国内に分布する近縁のゲンバイトンボと同様に、オスの中・後脚の頸節は白色で軍配状に広がる特異な形態を有しているが、チョウセンゲンバイトンボは雌雄ともに腹部第10節が黒色で、頭部の後頭条が左右に分かれる点、オスの中・後脚の跗節が白色となる点が区別点として挙げられる。</p> <p>主に樹林に囲まれた止水域（ダム湖、貯水池等）で確認されている。</p>
		②分布域	<p>（国内・現存） 長崎（対馬） （国外） 朝鮮半島、中国、極東ロシア</p>
		③存続を脅かす要因	<p>渇水等による止水域の消失、捕獲</p>
		④その他	<p>・種の保存法 緊急指定種</p> <p>分布域の一部は以下に含まれる。</p> <p>・都道府県指定鳥獣保護区</p> <p>※新記録種であるため環境省レッドリスト未掲載だが、次期レッドリストにおいて絶滅危惧種相当に評価される見込み。</p>

＜二枚貝類＞

種名 (学名)	選定要件※	種の概要	
<p>6. カタハガイ (<i>Obovalis omiensis</i>)</p> <p>分類：イシガイ科</p> <p>環境省RLカテゴリー：絶滅危惧II類 (VU)</p> <p>日本固有</p> <p>指定区分：特定第二種国内希少野生動植物種</p>  <p align="right">©近藤高貴</p>	イ	①種の特徴	<p>殻は長卵形で、膨らみは弱く平たい。殻長は通常80mmを超えない。殻表は平滑で、後背縁には放射状肋がある。幼生は垂三角形で、腹縁に刺状突起があり、殻長は0.07mmである。</p> <p>小川や用水路の砂礫～砂泥底に生息する。</p>
		②分布域	<p>(国内・現存) 新潟、石川、福井、岐阜、三重、滋賀、京都、兵庫、岡山、広島、山口、徳島※、香川、福岡、熊本、大分</p> <p>(国内・絶滅) 富山、愛知、大阪</p> <p>※徳島県の分布は「平成3年度吉野川水系河川水辺の国勢調査」に基づく。</p>
		③存続を脅かす要因	<p>河川開発や圃場整備による生息地の減少・消失、不十分な水路管理に伴う生息環境の悪化、タナゴ類の産卵母貝としての捕獲。</p>
		④その他	<p>他法令及び都道府県条例等に基づく指定状況は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・京都府絶滅のおそれのある野生生物の保全に関する条例指定種</li> <li>・福岡県希少野生動植物種の保護に関する条例指定種</li> </ul> <p>広域分布のため、該当保護区等の詳細については割愛。</p>

＜維管束植物＞

種名 (学名)	選定要件※	種の概要	
<p>7. ホザキヒメラン (<i>Dienia ophrydis</i>)</p> <p>分類：ラン科</p> <p>環境省RLカテゴリー：絶滅危惧IA類 (CR)</p> <p>指定区分：特定第一種国内希少野生動植物種</p>  <p>© (一財)沖縄美ら島財団 阿部篤志</p>	ア、エ	①種の特徴	<p>多年生草本。 偽球茎は円柱形、長さ10cm、4-5葉を互生。葉は楕円形、長さ12-20cm。総状花序は頂生し、長さ20cm、密に多数の花をつけ、花は淡黄緑色で、赤紫色を帯び、径5mm。萼片と花弁は長さ3mm、萼片は長楕円形、側花弁は線形、唇弁は長さ2mm、卵形、先は浅く3裂する。 山地の溪流沿いの岩上や林縁の湿った地上に生える。</p>
		②分布域	<p>(国内・現存) 沖縄(沖縄島、石垣島、西表島、与那国島) (国外) 中国南部、台湾、フィリピン、インド、タイ、インドシナ、マレーシア、オーストラリア</p>
		③存続を脅かす要因	森林伐採、園芸採取、産地局限、イノシシの影響懸念
		④その他	<p>他法令及び都道府県条例等に基づく指定状況は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西表石垣国立公園の指定植物</li> <li>・石垣市自然環境保全条例保全種</li> <li>・竹富町自然環境保護条例指定種 (捕獲等の規制なし)。</li> </ul> <p>生育地の一部は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国有林</li> <li>・国立公園</li> <li>・国定公園</li> <li>・国指定鳥獣保護区</li> <li>・都道府県指定鳥獣保護区</li> <li>・森林生態系保護地域</li> </ul>

※「①種の特徴」のうち、会議後に花卉の形態の記載について指摘があり、委員長と協議し記載を修正した。

種名 (学名)	選定要件※	種の概要	
<p>8. イリオモテカヤラン (<i>Thrixspermum annamense</i> var. <i>devolianum</i>)</p> <p>※既指定種ハガクレナガミランとして認識されていた植物の中に、国内新記録種のイリオモテカヤランが含まれていたことが解明された(令和5年9月)。</p> <p>分類：ラン科</p> <p>環境省RLカテゴリー：未掲載※</p> <p>指定区分：国内希少野生動植物種</p>  <p>©(一財)沖縄美ら島財団 阿部篤志</p>	ア、エ	①種の特徴	<p>多年生着生ラン。 唇弁は平らにすると幅5.0-6.5mm。唇弁の外側と内側に不明瞭なオレンジがかった赤色の斑が入る。 空中湿度の高い、暖地の山地自然林に生育する。</p>
		②分布域	<p>(国内・現存) 沖縄(西表島) (国外) 台湾</p>
		③存続を脅かす要因	園芸採取、開発、産地局限
		④その他	<p>他法令及び都道府県条例等に基づく指定状況は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【ハガクレナガミラン】西表石垣国立公園の指定植物</li> <li>・【ハガクレナガミラン】国内希少野生動植物種</li> </ul> <p>生育地の一部は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国有林</li> <li>・国立公園</li> <li>・国指定鳥獣保護区</li> <li>・森林生態系保護地域</li> </ul> <p>※新記録種であるため環境省レッドリスト未掲載だが、次期レッドリストにおいて絶滅危惧種相当に評価される見込み。</p>

種名 (学名)	選定要件*	種の概要	
<p>9. シコクイチゲ (<i>Anemone sikokiana</i>)</p> <p>分類：キンポウゲ科</p> <p>環境省RLカテゴリー：絶滅危惧IB類 (EN)</p> <p>日本固有</p> <p>指定区分：国内希少野生動植物種</p>  <p>© 松井宏光</p>	ア、ウ、エ	① 種の特徴	<p>多年生草本。 根茎は円柱形、単純、長さ3-5cmあるいはそれ以上、径5-15mm、直立あるいは斜上する。茎は1-3本、高さ25-65cm、直立し、長毛がまばらに生える。根出葉は1-3個、3深裂、裂片は広菱形～広倒卵状菱形、長さ2-6.5cm、幅1.5-5.5cm、欠刻があり、両面に伏毛があり、葉柄は長さ10-32cm、長毛が密生する。茎葉は4個、輪生し、無柄。花期は7月。花は3-10個が複散形あるいは散形花序につき、径1.5-2.2cm、白色、花柄は長さ3.5-6cm、果時には長さ8cmに達し、ふつう小苞があり、長毛がある。萼片は5-6個、楕円形、長さ8-10mm、両面ともに無毛。雄蕊は長さ2-4mm、葯は長さ1mm、黄色、花糸は広線形、広がる。集合果は広卵状、径約1cm、果托は無毛、瘦果は楕円形、長さ8mm、扁平で縁取りがあり、花柱は太く短く、柱頭は強く鉤状に曲がる。 岩礫地に生育する。</p>
		②分布域	<p>(国内・現存) 愛媛 (国外) 分布しないが、朝鮮北部と中国東部に分布する近縁種と同種とする見解もある。</p>
		③存続を脅かす要因	園芸採取、自然遷移(ササの侵入による植生遷移)、シカ食害、写真撮影時の踏み荒らし等のおそれ
		④その他	<p>他法令及び都道府県条例等に基づく指定状況は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・石鎚国定公園の指定植物</li> </ul> <p>生育地の一部は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国有林</li> <li>・国定公園</li> <li>・都道府県指定自然環境保全地域</li> <li>・国指定鳥獣保護区</li> <li>・都道府県指定休猟区</li> <li>・森林生態系保護地域</li> </ul>

種名 (学名)	選定要件*	種の概要	
<p>10. ホウライムラサキ (<i>Callicarpa formosana</i>)</p> <p>分類：クマツヅラ科</p> <p>環境省RLカテゴリー：絶滅危惧IA類 (CR)</p> <p>指定区分：特定第一種国内希少野生動植物種</p>  <p>© (一財)沖縄美ら島財団 阿部篤志</p>	ア、ウ	①種の特徴	<p>落葉低木。 高さ2-5mに達する落葉低木。小枝には淡黄褐色のやわらかい樹枝状に分枝した毛がある。葉は卵形～楕円形、長さ5-17cm、幅2.5-9cm、細かい鋸歯があり、側脈は8-9対、表面は毛が散生してざらつき、裏面は黄褐色の樹枝状毛と腺点がある。集散花序は腋生で密に分枝し、径4-5cm、長さ1.5-2.5cmの柄がある。萼は碗状で5歯があり、長さ約1mm、外面は有毛。花冠は紅紫色、4裂し、径約1.5mm、裂片は鈍頭、雄蕊は4本、花筒の約3倍長。花期はふつう4-8月。果実は球形、径2-3mm、藍紫色に熟す。 林内、林縁に生育する。</p>
		②分布域	<p>(国内・現存) 沖縄 (沖縄島) (国外) 台湾、中国南部、インドシナ、フィリピン</p>
		③存続を脅かす要因	<p>低地の開発、ダム建設、公園整備等による伐採、産地局限、採取の懸念</p>
		④その他	<p>特になし</p>